

環境と産業

担当教員 辻 義人

対象 全コース・学部共通選択

科目群 教養基礎科目群（社会参加）

授業概要

これまで、産業場面における「環境」は、公害や自然破壊など、負の側面から語られることが多かった。しかし現在、「環境」に関して、持続可能性の観点にもとづき、人類と環境との共存に向けた議論が行われている。本授業では、企業の社会的責任（CSR: Corporate Social Responsibility）、また、持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）に関して、私たちの日常生活との関連に注目し、理解を深めるものである。

キーワード

サステナビリティ、SDGs、環境経営、グリーンIT

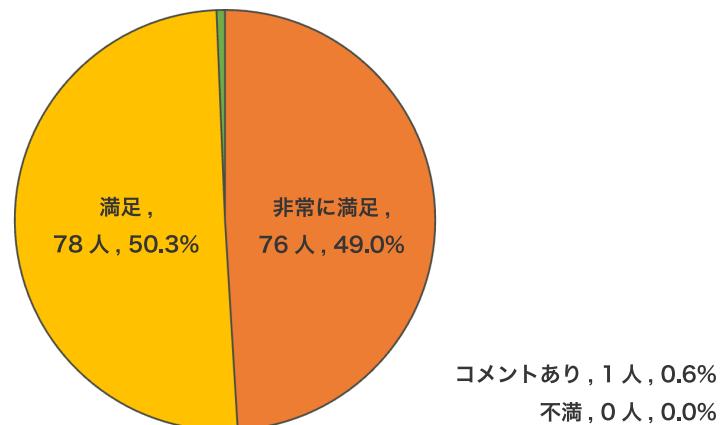
到達目標

1. 産業場面における「環境」の位置づけを理解する。
2. SDGs、CSRなど、環境経営に求められる視点を、私たちの日常社会と関連づけて理解する。
3. ニュース等の身近な題材にもとづき、産業活動と環境問題との関連を理解する。

授業フィードバックアンケート結果

授業満足度

■ 非常に満足	76 人	49.0%
■ 満足	78 人	50.3%
■ コメントあり	1 人	0.6%
■ 不満	0 人	0.0%



授業フィードバックアンケート結果

来年度以降も続けてほしいこと（抜粋）

- 時事問題を冒頭で扱うのは、講義内容をリアルタイムで現実的な問題として捉えられるので良かった。
- 講義だけではなく、その講義に関連した話題や、世界の出来事を紹介しているところが興味深かったです。これは続けてほしいと思いました。
- 講義を行っている時期に世界で起きている問題や国際会議などを紹介すること。この講義がなかつたら、COP28 でどのような内容が話し合われたのか知らなかったと思う。
- 身近な環境問題や社会問題について詳しく知ることができる。また、自分で調べてレポートを書く課題は、考えをより深められてよかったです。
- 定期試験では毎回の講義に深くかかわる課題が出されていたので、講義内容の理解が深かったです。
- これまで CSR 報告書を読む機会がなかったため、有意義であったと感じた。
- その日の授業内容をまとめるミニレポート課題は、内容をより理解することができるので、続けたほうがよいと思いました。

履修者から後輩へのアドバイス（抜粋）

- 社会人として知っておいたほうがよい知識が得られます。専門的ではなく、常識を学べる授業です。
- 最近耳にする、SDGs や環境保護団体などの言葉について勉強することができます。また、人間と環境が共生するにはどうすればよいかを考える良い機会になります。
- 難しい内容も丁寧に説明してくれていたので理解しやすく、毎回の講義の課題も難しくなくレポートを書く良い練習になったと思う。
- 授業をしっかり聞いていれば、毎回のミニレポート課題は難しくありません。さらに、ミニレポート課題では、社会人としての教養を学ぶことができるようになっています。
- 解説が非常にわかりやすいので、身構えることなく受講できると思います。現在の世界情勢についても講義内容と織り交ぜながら教えてくれるので、リアルタイム感のある講義だと思います。
- 環境に関するニュースを授業の冒頭で先生が解説してくれるので、社会情勢を把握することができます。
- 環境問題に対して、身边にある企業がどのようなことを行なっているのかを知ることができて、とても有益だった。

担当教員インタビュー

Q この授業を設計・実施する際のポイントを教えてください。

A この授業では、受講者の興味や関心を高めることを意識しました。この授業は、オンライン形式で開講されていたため、教員から受講者の表情が見えにくい状況でした。そのため、できるだけ身近な話題（講義配信の直前のニュース、また、日常的に利用しているお店やサービスなど）を紹介しています。授業に対するコメントで、環境に関するニュースを観るようになったとの回答があり、うれしく思いました。

Q この授業を担当していておもしろいところ、楽しいところを教えてください。

A この授業で扱っている内容は、まさに今現在、世界中で議論されているものです。授業内容と私たちの生活との関連が感じられるところが、興味深いものと思います。例年、後期の授業期間に、COP（気候変動枠組条約締結国会議）が開催されています。授業では、毎週、COP の様子や議論の進捗を解説しています。この準備には時間が必要ですが、担当教員としても、非常に勉強になります。

Q この授業の履修者、またはこれから履修しようと考えている学生へのメッセージをお願いします。

A 本授業は、2024 年度から、対面形式で開講します。これによって、さらにリアルタイム性の高いテーマを紹介することができ、より私たちとのつながりがわかりやすくなると考えています。環境問題と産業社会との関わりに关心のある方は、ぜひ受講してもらいたいと思います。